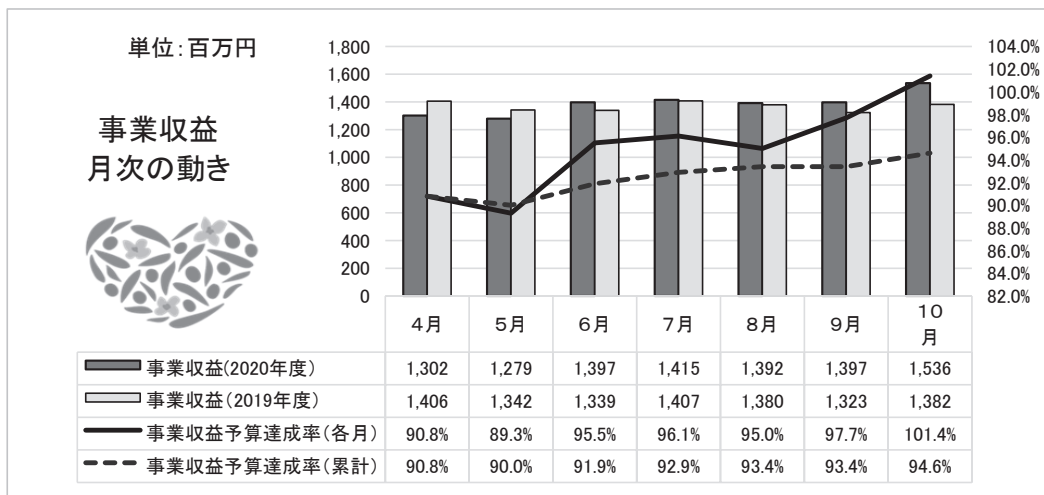


今年度経営状況のご報告

財務部長

岡田 浩



1. 2020年度収益の変化——ピンチをチャンスに

上のグラフにありますように、2020年度は特に4月から5月にかけて新型コロナウイルスの大きな影響を受け、京都保健会の事業収益は目標に対して約90%の到達、前年度実績に対して4月は約1億円、5月は約6千万円の大きな減収局面でのスタートとなりました。小児科をはじめ外来患者数の大幅な減少、健診の中止(または延期)になるなどかつてない苦しい状況でした。

他方、入院や在宅医療、訪問看護などの事業は厳しい状況にありながら、前年度実績を確保してきました。5月下旬に緊急事態宣言が解除され、6月以降は感染の防止に細心の注意を払いながら、事業活動を徐々に回復でき、前年同月の事業収益を上回る事ができるようになりました。

続いて10月には事業収益予算を達成し、法人全体で黒字を確保することができました。年度末の資金状況に一定の目途がつく状態になりました。

共同組織のみなさまには、地域でのたくさんの方の活動をはじめとして、健診や予防接種などでも多くの方にご利用いただいた結果です。

ご支援ほんとうにありがとうございます。

しかし冬本番を迎えるにあたり新型コロナウイルスの流行は不透明な状況にあります。当会といたしましては今後もできる限り入院、外来、在宅、健診、予防接種、介護事業などとおして、みなさんのケアをおこなってまいります。

また無料低額診療事業に取り組みます。引き続きよろしくお願いたします。

2. コロナ禍のなかで始まった新たな事業経営活動

院内の面会ができない中で患者さまとご家族などとの「オンライン面会」は協立病院がテレビで取り上げられ、他の病院にも広がりました。

職員の業務面で大きな変化が起きました。とくに多くが参加する会議は開催が困難となり、インターネットを活用したオンラインによる情報交換が始まりました。

中央病院の感染防止学習会を京都民医連事業所で共有、入院と在宅の連携を深めるための「連携ミーティング」、法人、中央病院や事業所の月次事業活動を情報交換する「経営報告会」(毎月第3木曜日)など短時間での学習や情報共有ができるようになりました。

ご存知のように京都保健会は丹後から京都市内まで広いエリアで活動しています。オンラインの学習会や会議で移動時間が少なくなり、参加可能な職員数が飛躍的に増えるなどの変化が起きました。

今後「ウィズコロナ」を考えながら、事業経営活動が創造的に発展していくように、全職員参加の経営をすすめてまいります。

